

——ある日、8人の人間たちが、笛吹きルンバに導かれ、闇に消え失せた。

人類の奏でる「音楽」なるものはすでに壊滅していた。地球上、人間に残された唯一の仕事（=芸術）は、ふいごを踏んで空気を送り込むことだけである。それも巨大な空気袋に。その行為によって、楽器の屍たちから「ゾンビ音楽」が奏でられるというのだ。

ゾンビ音楽の演奏者たち。2015年10月31日撮影。

ある日、笛吹きルンバが現れる。かつてあった「音楽」を救い出すために、不思議なメロディを奏でながら人間たちに近づく。と、大気が突如として爆発。人間たちがせっせと送り込んできた大気がとうとう飽和したのか。人間たちは混乱し危機に陥り、意志を失い、笛吹きルンバに導かれるように闇へと消え失せてしまった。

ゾンビ音楽の演奏者たち。2015年10月31日撮影。

ゾンビ音楽の演奏者たち。2015年10月31日撮影。

爆発後、廃墟と化した地球。だが人類は機械（=ゾンビ）となって蘇生する。宙からは声の屍たるゾンビ・クイーンが舞い降りて、いまや再び息を吹き込まれた「ゾンビ音楽」とともに新たな地球の物語を歌い始めるのだった。

ゾンビ音楽の演奏者たち。2015年10月31日撮影。

コンセプト・作曲：安野太郎 ドラマトウルク：渡邊未帆 美術：危口統之	
出演： <p>浅井信好、岸本昌也、左藤英美、新大久保 麻、滝藤敦寛、東金晃生、中村桃子、長屋耕太、八重尾 恵、山崎春美</p>	
ゾンビアンサンブル： <p>ゾンビクイーン、フルートゾンビ、クラリネットゾンビ、テナーサクソゾンビ、(リコーダー) 4ソプラノゾンビ、3アルトゾンビ、3テナーゾンビ、2バスゾンビ (ソプラノリコーダー) 8ルンバゾンビ</p>	
技術監督：寅川英司 技術監督助手：河野千鶴 舞台監督：渡部景介 演出部：佐藤 豪 照明：中能 良（株式会社DOTWORKS） 音響：相川 晶（有限会社サウンドウィーズ） 音響オペレーター：許斐 祐 衣裳：藤谷香子（FAIFAI） 映像：松澤延拓、堀田 創 美術コーディネーター：中村友美 バルーン：安元啓一郎（有限会社クラウン・ビー） 鉄骨：長船浩二（オサフネ製作所） ゾンビ制作：安野太郎、松本祐一 ゾンビアシスタント：後藤 天	
宣伝美術：宮村ヤスヲ メインビジュアル撮影：松本和幸 メインビジュアルイラスト：古泉智浩	
制作：荒川真由子、十万里紀子 制作アシスタント：石田晶子 インターン：久木野実玖、佐藤 凌、鈴木里咲、都丸杏樹、吉田明理、林 嘉琦 フロント運営：丸山 立	
記録写真：松本和幸 記録映像：株式会社彩高堂「西池袋映像」	
協力： <p>澤田秀之（香川大学 工学部 知能機械システム工学科）、 広重真人（北海道教育大学教育学部釧路校 地域学校教育） 特別協力：タカハ機工株式会社（ソレノイド） 主催・企画・製作：フェスティバル/トーキョー</p>	
文化庁メディア芸術祭協賛事業	

Concept, Music: Taro Yasuno Dramaturge: Miho Watanabe Stage Design: Noriyuki Kiguchi	
Cast: <p>Nobuyoshi Asai, Masaya Kishimoto, Emi Sato, Taka Shinokubo, Takahiro Takigoshi, Mitsuki Togane, Momoko Nakamura, Kota Nagaya, Megumu Yaeo, Harumi Yamazaki</p>	
Zombie Ensemble: <p>Zombie Queen, Flute Zombie, Clarinet Zombie, Tenor Saxophone Zombie Recorders: 4 Soprano Zombies, 3 Alto Zombies, 3 Tenor Zombies, 2 Bass Zombies Soprano Recorders: 8 Roomba Zombies</p>	
Technical Manager: Eiji Torakawa Assistant Technical Manager: Chizuru Kouno Stage Manager: Keisuke Watanabe Stage Assistant: Go Sato Lighting Co-ordination: Ryo Nakano (DotWorks Co., Ltd.) Sound Co-ordination: Akira Aikawa (Sound Weeds Inc.) Sound Operation: Tasuku Konomi Costumes: Kyoko Fujitani (FAIFAI) Video: Nobuhiro Matsuzawa, Sou Horita Stage Design Co-ordination: Tomomi Nakamura Balloon: Keiichiro Yasumoto (clown ★ bee) Frame Construction: Koji Osafune (Osafune Seisakusho) Zombie Music: Taro Yasuno, Yuichi Matsumoto Zombie Music Assistant: Takashi Goto	
Advertising Design: Yasuwo Miyamura Main Visual Photography: Kazuyuki Matsumoto Main Visual Illustration: Tomohiro Koizumi	
Production Co-ordination: Mayuko Arakawa, Akiko Juman Production Co-ordination Assistant: Akiko Ishida Interns: <p>Miku Kukino, Ryo Sato, Risa Suzuki, Anju Tomaru, Akari Yoshida, Lin Chia Chi Front of House: Ryu Maruyama</p>	
Photography: Kazuyuki Matsumoto Video Documentation: SAIKOUDD Co., Ltd.	
In co-operation with Hideyuki Sawada (Faculty of Engineering, Kagawa University), Makoto Hiroshige (Hokkaido University of Education, Kushiro Campus) Special co-operation from TAKAHA KIKO CO., LTD. (solenoid) Planed, produced and presented by Festival/Tokyo	
Supported by Japan Media Arts Festival	

コンセプト・作曲：安野太郎 ドラマトウルク：渡邊未帆 美術：危口統之	
出演： <p>浅井信好、岸本昌也、左藤英美、新大久保 麻、滝藤敦寛、東金晃生、中村桃子、長屋耕太、八重尾 恵、山崎春美</p>	
ゾンビアンサンブル： <p>ゾンビクイーン、フルートゾンビ、クラリネットゾンビ、テナーサクソゾンビ、(リコーダー) 4ソプラノゾンビ、3アルトゾンビ、3テナーゾンビ、2バスゾンビ (ソプラノリコーダー) 8ルンバゾンビ</p>	
技術監督：寅川英司 技術監督助手：河野千鶴 舞台監督：渡部景介 演出部：佐藤 豪 照明：中能 良（株式会社DOTWORKS） 音響：相川 晶（有限会社サウンドウィーズ） 音響オペレーター：許斐 祐 衣裳：藤谷香子（FAIFAI） 映像：松澤延拓、堀田 創 美術コーディネーター：中村友美 バルーン：安元啓一郎（有限会社クラウン・ビー） 鉄骨：長船浩二（オサフネ製作所） ゾンビ制作：安野太郎、松本祐一 ゾンビアシスタント：後藤 天	
宣伝美術：宮村ヤスヲ メインビジュアル撮影：松本和幸 メインビジュアルイラスト：古泉智浩	
制作：荒川真由子、十万里紀子 制作アシスタント：石田晶子 インターン：久木野実玖、佐藤 凌、鈴木里咲、都丸杏樹、吉田明理、林 嘉琦 フロント運営：丸山 立	
記録写真：松本和幸 記録映像：株式会社彩高堂「西池袋映像」	
協力： <p>澤田秀之（香川大学 工学部 知能機械システム工学科）、 広重真人（北海道教育大学教育学部釧路校 地域学校教育） 特別協力：タカハ機工株式会社（ソレノイド） 主催・企画・製作：フェスティバル/トーキョー</p>	
文化庁メディア芸術祭協賛事業	

コンセプト・作曲：安野太郎 ドラマトウルク：渡邊未帆 美術：危口統之	
出演： <p>浅井信好、岸本昌也、左藤英美、新大久保 麻、滝藤敦寛、東金晃生、中村桃子、長屋耕太、八重尾 恵、山崎春美</p>	
ゾンビアンサンブル： <p>ゾンビクイーン、フルートゾンビ、クラリネットゾンビ、テナーサクソゾンビ、(リコーダー) 4ソプラノゾンビ、3アルトゾンビ、3テナーゾンビ、2バスゾンビ (ソプラノリコーダー) 8ルンバゾンビ</p>	
技術監督：寅川英司 技術監督助手：河野千鶴 舞台監督：渡部景介 演出部：佐藤 豪 照明：中能 良（株式会社DOTWORKS） 音響：相川 晶（有限会社サウンドウィーズ） 音響オペレーター：許斐 祐 衣裳：藤谷香子（FAIFAI） 映像：松澤延拓、堀田 創 美術コーディネーター：中村友美 バルーン：安元啓一郎（有限会社クラウン・ビー） 鉄骨：長船浩二（オサフネ製作所） ゾンビ制作：安野太郎、松本祐一 ゾンビアシスタント：後藤 天	
宣伝美術：宮村ヤスヲ メインビジュアル撮影：松本和幸 メインビジュアルイラスト：古泉智浩	
制作：荒川真由子、十万里紀子 制作アシスタント：石田晶子 インターン：久木野実玖、佐藤 凌、鈴木里咲、都丸杏樹、吉田明理、林 嘉琦 フロント運営：丸山 立	
記録写真：松本和幸 記録映像：株式会社彩高堂「西池袋映像」	
協力： <p>澤田秀之（香川大学 工学部 知能機械システム工学科）、 広重真人（北海道教育大学教育学部釧路校 地域学校教育） 特別協力：タカハ機工株式会社（ソレノイド） 主催・企画・製作：フェスティバル/トーキョー</p>	
文化庁メディア芸術祭協賛事業	

コンセプト・作曲：安野太郎 ドラマトウルク：渡邊未帆 美術：危口統之	
出演： <p>浅井信好、岸本昌也、左藤英美、新大久保 麻、滝藤敦寛、東金晃生、中村桃子、長屋耕太、八重尾 恵、山崎春美</p>	
ゾンビアンサンブル： <p>ゾンビクイーン、フルートゾンビ、クラリネットゾンビ、テナーサクソゾンビ、(リコーダー) 4ソプラノゾンビ、3アルトゾンビ、3テナーゾンビ、2バスゾンビ (ソプラノリコーダー) 8ルンバゾンビ</p>	
技術監督：寅川英司 技術監督助手：河野千鶴 舞台監督：渡部景介 演出部：佐藤 豪 照明：中能 良（株式会社DOTWORKS） 音響：相川 晶（有限会社サウンドウィーズ） 音響オペレーター：許斐 祐 衣裳：藤谷香子（FAIFAI） 映像：松澤延拓、堀田 創 美術コーディネーター：中村友美 バルーン：安元啓一郎（有限会社クラウン・ビー） 鉄骨：長船浩二（オサフネ製作所） ゾンビ制作：安野太郎、松本祐一 ゾンビアシスタント：後藤 天	
宣伝美術：宮村ヤスヲ メインビジュアル撮影：松本和幸 メインビジュアルイラスト：古泉智浩	
制作：荒川真由子、十万里紀子 制作アシスタント：石田晶子 インターン：久木野実玖、佐藤 凌、鈴木里咲、都丸杏樹、吉田明理、林 嘉琦 フロント運営：丸山 立	
記録写真：松本和幸 記録映像：株式会社彩高堂「西池袋映像」	
協力： <p>澤田秀之（香川大学 工学部 知能機械システム工学科）、 広重真人（北海道教育大学教育学部釧路校 地域学校教育） 特別協力：タカハ機工株式会社（ソレノイド） 主催・企画・製作：フェスティバル/トーキョー</p>	
文化庁メディア芸術祭協賛事業	

コンセプト・作曲：安野太郎 ドラマトウルク：渡邊未帆 美術：危口統之	
出演： <p>浅井信好、岸本昌也、左藤英美、新大久保 麻、滝藤敦寛、東金晃生、中村桃子、長屋耕太、八重尾 恵、山崎春美</p>	
ゾンビアンサンブル： <p>ゾンビクイーン、フルートゾンビ、クラリネットゾンビ、テナーサクソゾンビ、(リコーダー) 4ソプラノゾンビ、3アルトゾンビ、3テナーゾンビ、2バスゾンビ (ソプラノリコーダー) 8ルンバゾンビ</p>	
技術監督：寅川英司 技術監督助手：河野千鶴 舞台監督：渡部景介 演出部：佐藤 豪 照明：中能 良（株式会社DOTWORKS） 音響：相川 晶（有限会社サウンドウィーズ） 音響オペレーター：許斐 祐 衣裳：藤谷香子（FAIFAI） 映像：松澤延拓、堀田 創 美術コーディネーター：中村友美 バルーン：安元啓一郎（有限会社クラウン・ビー） 鉄骨：長船浩二（オサフネ製作所） ゾンビ制作：安野太郎、松本祐一 ゾンビアシスタント：後藤 天	
宣伝美術：宮村ヤスヲ メインビジュアル撮影：松本和幸 メインビジュアルイラスト：古泉智浩	
制作：荒川真由子、十万里紀子 制作アシスタント：石田晶子 インターン：久木野実玖、佐藤 凌、鈴木里咲、都丸杏樹、吉田明理、林 嘉琦 フロント運営：丸山 立	
記録写真：松本和幸 記録映像：株式会社彩高堂「西池袋映像」	
協力： <p>澤田秀之（香川大学 工学部 知能機械システム工学科）、 広重真人（北海道教育大学教育学部釧路校 地域学校教育） 特別協力：タカハ機工株式会社（ソレノイド） 主催・企画・製作：フェスティバル/トーキョー</p>	
文化庁メディア芸術祭協賛事業	

コンセプト・作曲：安野太郎 ドラマトウルク：渡邊未帆 美術：危口統之	
出演： <p>浅井信好、岸本昌也、左藤英美、新大久保 麻、滝藤敦寛、東金晃生、中村桃子、長屋耕太、八重尾 恵、山崎春美</p>	
ゾンビアンサンブル： <p>ゾンビクイーン、フルートゾンビ、クラリネットゾンビ、テナーサクソゾンビ、(リコーダー) 4ソプラノゾンビ、3アルトゾンビ、3テナーゾンビ、2バスゾンビ (ソプラノリコーダー) 8ルンバゾンビ</p>	
技術監督：寅川英司 技術監督助手：河野千鶴 舞台監督：渡部景介 演出部：佐藤 豪 照明：中能 良（株式会社DOTWORKS） 音響：相川 晶（有限会社サウンドウィーズ） 音響オペレーター：許斐 祐 衣裳：藤谷香子（FAIFAI） 映像：松澤延拓、堀田 創 美術コーディネーター：中村友美 バルーン：安元啓一郎（有限会社クラウン・ビー） 鉄骨：長船浩二（オサフネ製作所） ゾンビ制作：安野太郎、松本祐一 ゾンビアシスタント：後藤 天	
宣伝美術：宮村ヤスヲ メインビジュアル撮影：松本和幸 メインビジュアルイラスト：古泉智浩	
制作：荒川真由子、十万里紀子 制作アシスタント：石田晶子 インターン：久木野実玖、佐藤 凌、鈴木里咲、都丸杏樹、吉田明理、林 嘉琦 フロント運営：丸山 立	
記録写真：松本和幸 記録映像：株式会社彩高堂「西池袋映像」	
協力： <p>澤田秀之（香川大学 工学部 知能機械システム工学科）、 広重真人（北海道教育大学教育学部釧路校 地域学校教育） 特別協力：タカハ機工株式会社（ソレノイド） 主催・企画・製作：フェスティバル/トーキョー</p>	
文化庁メディア芸術祭協賛事業	

コンセプト・作曲：安野太郎 ドラマトウルク：渡邊未帆 美術：危口統之	
出演： <p>浅井信好、岸本昌也、左藤英美、新大久保 麻、滝藤敦寛、東金晃生、中村桃子、長屋耕太、八重尾 恵、山崎春美</p>	
ゾンビアンサンブル： <p>ゾンビクイーン、フルートゾンビ、クラリネットゾンビ、テナーサクソゾンビ、(リコーダー) 4ソプラノゾンビ、3アルトゾンビ、3テナーゾンビ、2バスゾンビ (ソプラノリコーダー) 8ルンバゾンビ</p>	
技術監督：寅川英司 技術監督助手：河野千鶴 舞台監督：渡部景介 演出部：佐藤 豪 照明：中能 良（株式会社DOTWORKS） 音響：相川 晶（有限会社サウンドウィーズ） 音響オペレーター：許斐 祐 衣裳：藤谷香子（FAIFAI） 映像：松澤延拓、堀田 創 美術コーディネーター：中村友美 バルーン：安元啓一郎（有限会社クラウン・ビー） 鉄骨：長船浩二（オサフネ製作所） ゾンビ制作：安野太郎、松本祐一 ゾンビアシスタント：後藤 天	
宣伝美術：宮村ヤスヲ メインビジュアル撮影：松本和幸 メインビジュアルイラスト：古泉智浩	
制作：荒川真由子、十万里紀子 制作アシスタント：石田晶子 インターン：久木野実玖、佐藤 凌、鈴木里咲、都丸杏樹、吉田明理、林 嘉琦 フロント運営：丸山 立	
記録写真：松本和幸 記録映像：株式会社彩高堂「西池袋映像」	
協力： <p>澤田秀之（香川大学 工学部 知能機械システム工学科）、 広重真人（北海道教育大学教育学部釧路校 地域学校教育） 特別協力：タカハ機工株式会社（ソレノイド） 主催・企画・製作：フェスティバル/トーキョー</p>	
文化庁メディア芸術祭協賛事業	

コンセプト・作曲：安野太郎 ドラマトウルク：渡邊未帆 美術：危口統之	
出演： <p>浅井信好、岸本昌也、左藤英美、新大久保 麻、滝藤敦寛、東金晃生、中村桃子、長屋耕太、八重尾 恵、山崎春美</p>	
ゾンビアンサンブル： <p>ゾンビクイーン、フルートゾンビ、クラリネットゾンビ、テナーサクソゾンビ、(リコーダー) 4ソプラノゾンビ、3アルトゾンビ、3テナーゾンビ、2バスゾンビ (ソプラノリコーダー) 8ルンバゾンビ</p>	
技術監督：寅川英司 技術監督助手：河野千鶴 舞台監督：渡部景介 演出部：佐藤 豪 照明：中能 良（株式会社DOTWORKS） 音響：相川 晶（有限会社サウンドウィーズ） 音響オペレーター：許斐 祐 衣裳：藤谷香子（FAIFAI） 映像：松澤延拓、堀田 創 美術コーディネーター：中村友美 バルーン：安元啓一郎（有限会社クラウン・ビー） 鉄骨：長船浩二（オサフネ製作所） ゾンビ制作：安野太郎、松本祐一 ゾンビアシスタント：後藤 天	
宣伝美術：宮村ヤスヲ メインビジュアル撮影：松本和幸 メインビジュアルイラスト：古泉智浩	
制作：荒川真由子、十万里紀子 制作アシスタント：石田晶子 インターン：久木野実玖、佐藤 凌、鈴木里咲、都丸杏樹、吉田明理、林 嘉琦 フロント運営：丸山 立	
記録写真：松本和幸 記録映像：株式会社彩高堂「西池袋映像」	
協力： <p>澤田秀之（香川大学 工学部 知能機械システム工学科）、 広重真人（北海道教育大学教育学部釧路校 地域学校教育） 特別協力：タカハ機工株式会社（ソレノイド） 主催・企画・製作：フェスティバル/トーキョー</p>	
文化庁メディア芸術祭協賛事業	

コンセプト・作曲：安野太郎 ドラマトウルク：渡邊未帆 美術：危口統之	
出演： <p>浅井信好、岸本昌也、左藤英美、新大久保 麻、滝藤敦寛、東金晃生、中村桃子、長屋耕太、八重尾 恵、山崎春美</p>	
ゾンビアンサンブル： <p>ゾンビクイーン、フルートゾンビ、クラリネットゾンビ、テナーサクソゾンビ、(リコーダー) 4ソプラノゾンビ、3アルトゾンビ、3テナーゾンビ、2バスゾンビ (ソプラノリコーダー) 8ルンバゾンビ</p>	
技術監督：寅川英司 技術監督助手：河野千鶴 舞台監督：渡部景介 演出部：佐藤 豪 照明：中能 良（株式会社DOTWORKS） 音響：相川 晶（有限会社サウンドウィーズ） 音響オペレーター：許斐 祐 衣裳：藤谷香子（FAIFAI） 映像：松澤延拓、堀田 創 美術コーディネーター：中村友美 バルーン：安元啓一郎（有限会社クラウン・ビー） 鉄骨：長船浩二（オサフネ製作所） ゾンビ制作：安野太郎、松本祐一 ゾンビアシスタント：後藤 天	
宣伝美術：宮村ヤスヲ メインビジュアル撮影：松本和幸 メインビジュアルイラスト：古泉智浩	
制作：荒川真由子、十万里紀子 制作アシスタント：石田晶子 インターン：久木野実玖、佐藤 凌、鈴木里咲、都丸杏樹、吉田明理、林 嘉琦 フロント運営：丸山 立	
記録写真：松本和幸 記録映像：株式会社彩高堂「西池袋映像」	
協力： <p>澤田秀之（香川大学 工学部 知能機械システム工学科）、 広重真人（北海道教育大学教育学部釧路校 地域学校教育） 特別協力：タカハ機工株式会社（ソレノイド） 主催・企画・製作：フェスティバル/トーキョー</p>	
文化庁メディア芸術祭協賛事業	

コンセプト・作曲：安野太郎 ドラマトウルク：渡邊未帆 美術：危口統之	
出演： <p>浅井信好、岸本昌也、左藤英美、新大久保 麻、滝藤敦寛、東金晃生、中村桃子、長屋耕太、八重尾 恵、山崎春美</p>	
ゾンビアンサンブル： <p>ゾンビクイーン、フルートゾンビ、クラリネットゾンビ、テナーサクソゾンビ、(リコーダー) 4ソプラノゾンビ、3アルトゾンビ、3テナーゾンビ、2バスゾンビ (ソプラノリコーダー) 8ルンバゾンビ</p>	
技術監督：寅川英司 技術監督助手：河野千鶴 舞台監督：渡部景介 演出部：佐藤 豪 照明：中能 良（株式会社DOTWORKS） 音響：相川 晶（有限会社サウンドウィーズ） 音響オペレーター：許斐 祐 衣裳：藤谷香子（FAIFAI） 映像：松澤延拓、堀田 創 美術コーディネーター：中村友美 バルーン：安元啓一郎（有限会社クラウン・ビー） 鉄骨：長船浩二（オサフネ製作所） ゾンビ制作：安野太郎、松本祐一 ゾンビアシスタント：後藤 天	
宣伝美術：宮村ヤスヲ メインビジュアル撮影：松本和幸 メインビジュアルイラスト：古泉智浩	
制作：荒川真由子、十万里紀子 制作アシスタント：石田晶子 インターン：久木野実玖、佐藤 凌、鈴木里咲、都丸杏樹、吉田明理、林 嘉琦 フロント運営：丸山 立	
記録写真：松本和幸 記録映像：株式会社彩高堂「西池袋映像」	
協力： <p>澤田秀之（香川大学 工学部 知能機械システム工学科）、 広重真人（北海道教育大学教育学部釧路校 地域学校教育） 特別協力：タカハ機工株式会社（ソレノイド） 主催・企画・製作：フェスティバル/トーキョー</p>	
文化庁メディア芸術祭協賛事業	

コンセプト・作曲：安野太郎 ドラマトウルク：渡邊未帆 美術：危口統之	
出演： <p>浅井信好、岸本昌也、左藤英美、新大久保 麻、滝藤敦寛、東金晃生、中村桃子、長屋耕太、八重尾 恵、山崎春美</p>	
ゾンビアンサンブル： <p>ゾンビクイーン、フルートゾンビ、クラリネットゾンビ、テナーサクソゾンビ、(リコーダー) 4ソプラノゾンビ、3アルトゾンビ、3テナーゾンビ、2バスゾンビ (ソプラノリコーダー) 8ルンバゾンビ</p>	
技術監督：寅川英司 技術監督助手：河野千鶴 舞台監督：渡部景介 演出部：佐藤 豪 照明：中能 良（株式会社DOTWORKS） 音響：相川 晶（有限会社サウンドウィーズ） 音響オペレーター：許斐 祐 衣裳：藤谷香子（FAIFAI） 映像：松澤延拓、堀田 創 美術コーディネーター：中村友美 バルーン：安元啓一郎（有限会社クラウン・ビー） 鉄骨：長船浩二（オサフネ製作所） ゾンビ制作：安野太郎、松本祐一 ゾンビアシスタント：後藤 天	
宣伝美術：宮村ヤスヲ メインビジュアル撮影：松本和幸 メインビジュアルイラスト：古泉智浩	
制作：荒川真由子、十万里紀子 制作アシスタント：石田晶子 インターン：久木野実玖、佐藤 凌、鈴木里咲、都丸杏樹、吉田明理、林 嘉琦 フロント運営：丸山 立	
記録写真：松本和幸 記録映像：株式会社彩高堂「西池袋映像」	
協力： <p>澤田秀之（香川大学 工学部 知能機械システム工学科）、 広重真人（北海道教育大学教育学部釧路校 地域学校教育） 特別協力：タカハ機工株式会社（ソレノイド） 主催・企画・製作：フェスティバル/トーキョー</p>	
文化庁メディア芸術祭協賛事業	

コンセプト・作曲：安野太郎 ドラマトウルク：渡邊未帆 美術：危口統之	
出演： <p>浅井信好、岸本昌也、左藤英美、新大久保 麻、滝藤敦寛、東金晃生、中村桃子、長屋耕太、八重尾 恵、山崎春美</p>	
ゾンビアンサンブル： <p>ゾンビクイーン、フルートゾンビ、クラリネットゾンビ、テナーサクソゾンビ、(リコーダー) 4ソプラノゾンビ、3アルトゾンビ、3テナーゾンビ、2バスゾンビ (ソプラノリコーダー) 8ルンバゾンビ</p>	
技術監督：寅川英司 技術監督助手：河野千鶴 舞台監督：渡部景介 演出部：佐藤 豪 照明：中能 良（株式会社DOTWORKS） 音響：相川 晶（有限会社サウンドウィーズ） 音響オペレーター：許斐 祐 衣裳：藤谷香子（FAIFAI） 映像：松澤延拓、堀田 創 美術コーディネーター：中村友美 バルーン：安元啓一郎（有限会社クラウン・ビー） 鉄骨：長船浩二（オサフネ製作所） ゾンビ制作：安野太郎、松本祐一 ゾンビアシスタント：後藤 天	
宣伝美術：宮村ヤスヲ メインビジュアル撮影：松本和幸 メインビジュアルイラスト：古泉智浩	
制作：荒川真由子、十万里紀子 制作アシスタント：石田晶子 インターン：久木野実玖、佐藤 凌、鈴木里咲、都丸杏樹、吉田明理、林 嘉琦 フロント運営：丸山 立	
記録写真：松本和幸 記録映像：株式会社彩高堂「西池袋映像」	
協力： <p>澤田秀之（香川大学 工学部 知能機械システム工学科）、 広重真人（北海道教育大学教育学部釧路校 地域学校教育） 特別協力：タカハ機工株式会社（ソレノイド） 主催・企画・製作：フェスティバル/トーキョー</p>	
文化庁メディア芸術祭協賛事業	

フェスティバル/トーキョー実行委員会	
顧問	野村 寛 公益社団法人日本芸能実演家団体協議会 会長、能楽師 <p>福原義寿 株式会社養生堂 名誉会長</p>
名誉実行委員長	高野之夫 豊島区長
実行委員長	萩田 伍 アサヒグループホールディングス株式会社 相談役
副実行委員長	市村作知雄 NPO 法人アートネットワーク・ジャパン 会長 <p>栗原 章 豊島区文化商工部長</p> <p>東 洋 昭 公益財団法人としま未来文化財団 常務理事／事務局長</p> <p>岡崎元規 公益財団法人企業メッセ協議会 理事長、花王株式会社 顧問</p> <p>熊倉純子 東京藝術大学音楽学部音楽環境創造科 教授</p> <p>斉藤幸博 株式会社養生堂企業文化部 長</p> <p>鈴木敦子 アサヒビール株式会社経営企画本部社会環境部 部長</p> <p>鈴木正美 東京商工会議所豊島支部 会長</p> <p>永井多恵子 公益社団法人国際演劇協会日本センター 会長</p> <p>小澤弘一 豊島区文化商工部文化デザイン課長</p> <p>岸 正 人 公益財団法人としま未来文化財団 理事長</p> <p>蓮池宗穂子 NPO 法人アートネットワーク・ジャパン 理事長</p> <p>小島寛大 NPO 法人アートネットワーク・ジャパン 理事</p>
委員	鈴木さよ子 豊島区総務部総務課長
監事	福井健策、北澤尚登（音響通り法律事務所）
法務アドバイザー	
フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局	
ディレクターズコミティ	
代表	市村作知雄
副代表	小島寛大、河合千佳
メンバー	重原円花、善友名織江、十万里紀子、長原理江、横橋広彦
事務局長	重原円花
制作	小島寛大、河合千佳 <p>善友名織江、十万里紀子、荒川真由子、砂川史実、松嶋瑞奈、松宮俊文、横井美子、岡崎由美子、三平文乃</p> <p>長原理江、横川京子</p> <p>堀 久美子、谷口英和</p> <p>平田幸栄、蓮池宗穂子、一色壽好</p> <p>佐々木由美子、佐藤久美子</p>
技術監督	寅川英司
技術監督アシスタント	河野千鶴
照明コーディネーター	佐々真織子（株式会社ファクター）
音響コーディネーター	相川 晶（有限会社サウンドウィーズ）

ゾンビ音楽とその未来。そのとき人間は――

人間が奏でる“音楽”が絶滅した後の世界を描く本作。機械による演奏に魂は宿るか、人間しかなしえない表現とは何か？ 創作をめぐる思考は、哲学的な領域にまで深化していく――。（取材・文＝島貴泰介）

――安野さんが提唱する「ゾンビ音楽」の説明をお願いします。

安野　端的に言えば、ロボットに演奏させる音楽です。コンピュータで制御した作りモノの指でリコーダーやクラリネットの音孔を押さえ、エアコンプレッサーから歌口に空気を送ることで音楽を奏でる。

――人間ではなく、機械が演奏するからゾンビ音楽。安野　このシステムを使ってすべての木管楽器を演奏するのが今後の目標の1つなんですけど、今回は技術も進んで、サクソやフルート、そしてお掃除ロボットのルンバが加わった全16台編成になっています。

――以前拝見したライブでは、演奏の間にオリジナルのゾンビ映画の短編が上映されていました。今回は「ゾンビオペラ」と銘打っていますから、音楽に物語が加わる？ 安野　僕が以前記した「ゾンビ音楽史」に基づいて、渡邊さんに書き下ろしていただいた内容が展開していきます。今回の公演をやる理由もこの音楽史を踏まえていて、西暦4001年までの年表が予め決まっています。そこに「2015年にゾンビオペラをやる」とあったからなんです。

――人類が滅亡した後、ゾンビ音楽を奏でる機械だけが地球上に残されるという音楽史ですね。今のところ順調に予定は達成されているので、今後も期待です。

渡邊　安野さんのゾンビ音楽史を土台に、『ハーメルンの笛吹き男』をモチーフに構成しています。あくまで主役はゾンビ音楽とそれを奏でる舞台上の装置です。

――危口さんは、2011年にトーキョーワンダーサイト渋谷の単独公演「安野太郎のゾンビ音楽



安野太郎（コンセプト・音楽）
×
渡邊未帆（ドラマトウルク）
×
危口統之（美術）

QUARTET OF THE LIVING DEAD』でも、ゾンビ音楽の装置を収めた棺桶のような美術を制作しました。安野さんとは久々のコラボレーションになりますけど、いかがですか？

危口　SNSで断片的に装置の映像を公開してきましたが、木管楽器の装置に、人間が操作する仕掛けが加わっています。そのあたりを安野さん、渡邊さんと相談しながら制作しています。

――安野さんがゾンビ音楽をスタートした当初は、音孔の開閉などが難しかったそうですが、現在は技術も向上して安定しました。ところが今回は人間が介在することでむしろ不安定さが生じたとか。

危口　試行錯誤してそのハードルはクリアしつつあるのですが、悩ましいところですね。「(オペラ作品なので)俳優を起用しては？」という意見もあれば、コンセプト的には人間不在の方が正しいかもしれない。でも、運動や疲労で生じる人間の身体の揺れがビブラートのような、思わぬ効果を生むのも面白かった。でもそれは「演奏」行為になってしまうわけで、「じゃあ自分でリコーダー吹けばいいじゃん？」となってしまう。難しいです。

が、そのセンシティブさはとても大事だと思います。理にかなった実現性や利便性だけを追い求めても、社会を前提に最適化されたコンビニに近いものになっていって、世知辛くなってしまう。特定のジャンル、特殊な環境下で実現するかもしれないアイデアを練るトレーニングによって遠くまで想像力を伸ばしておくことは、いずれどこかで非常に強い貢献をするはず。

――渡邊さんはいかがですか？

渡邊　作曲家・安野太郎は、むしろ音楽史に真正面から向き合っている作曲家と言えるのかもしれませんが。あえて音楽史上に位置づけるなら、ヤニス・クセナキスの延長に、私はマッピングしてみたい。クセナキスは数学や建築の発想を方法論に取り入れた作曲システムを作りました。彼は、人間が死に絶えても、作曲システムさえあれば音楽は存在するの否かという命題に直面していた作曲家だと思います。ゾンビ音楽もまさにそんなことを私に考えさせてくれる音楽です。

安野　ゾンビ音楽をやっていると、悪の帝王みたいな気分になることがあります。世界中にゾンビ音楽を広めて、すべての音楽をゾンビ化してやりたい(笑)。ゾンビ音楽は二進法の原則に従ってプログラミングされている(笛の穴を押さえる、外す)ので、すべての音楽を0と1に還元する。渡邊　「世界すべてを0と1にしてやろう……！」というのが、悪の帝王からのメッセージですね。それは本当に考えるだけで恐ろしいことです。どっちつかずの部分や、あわいの世界がないのですから。

0と1の世界を超えて

――私は2011年の単独公演も取材させていただいて、「ゾンビ音楽の音色は、ヘロヘロでしょぼい」と書きました。技術的に洗練されてしまうと、ゾンビ音楽の「ゾンビ性」は失われてしまいませんか？

安野　でもそれは「ヘロヘロ」じゃない音楽を基準にしているだけで、完全に西洋音楽の耳で聴いちゃっているんですよ。ゾンビ音楽を聴いて、血まみれの朽ちた肉体をイメージさせてしまったら、それは俺にとっては大失敗なんですよ。とはいえ結局聴くのは人間ですからね。人の価値観に基準があるのはしょうがないし、「失敗」を誘いながら煽っている部分もある。それは自分の中でも矛盾している。

危口　それこそ安野さんの魅力ですよ。稽古中から安野さんは「面白い / 面白くない」の基準を持ち出すこと自体への警戒をしばしば表明しているのです

が、そのセンシティブさはとても大事だと思います。理にかなった実現性や利便性だけを追い求めても、社会を前提に最適化されたコンビニに近いものになっていって、世知辛くなってしまう。特定のジャンル、特殊な環境下で実現するかもしれないアイデアを練るトレーニングによって遠くまで想像力を伸ばしておくことは、いずれどこかで非常に強い貢献をするはず。

ゾンビ音楽の極致。その先に――

――最近、日常生活のいろんな場所にロボットが進出していますから、ゾンビ音楽の延長で、料理する装置が作られるかもしれませんよ(笑)。安野　ゾンビ音楽の殿堂は作りたいです。だってゾンビ音楽史の最後は、無人島を買って、海の水で発電できる核融合路を作り、その下に核シェルターを作り、そこでゾンビ音楽が永久に鳴り続けているというものですから。危口　でも、そのときポイントになるのは、ゾンビ音楽の「できてなさ」ですよ。0と1のデジタルの世界かと思いきや、うまく音が出なかったり、誤作動したり、一種のノイズが発生する。僕はそこにこそ「キャラクター」が宿るのだと思います。

――洗練された完璧な機械より、レトロな佇まいがある、ちょっとマヌケな機械のほうが、たしかに愛着がわきます。危口　性能が十全に発揮された状態から、マイナスαするとき、マイナスされた部分からキャラが立ち上がっていく。今回使うルンバなんか特に顕著で、企業が作った大量生産のプロダクトなのに、一個一個キャラが立っていて、違いが現れる。何の因果かわからないけど、やたら熱心に掃除するルンバもい

れば、すぐに充電しに帰るルンバとかも現れるんですよ。そこで僕は「あいつはのび太で、こいつはスネ夫」みたいな目で見はじめちゃうんですね。個々の機械の「できてなさ」が、愛おしさをこちらにもよおさせる理由は、演劇的な目から見ても面白いです。

ゾンビ音楽の極致。その先に――

危口　渡邊さんはモロッコのジャジュウカ村に音楽リサーチに行っていますよね。1000年以上前から伝わる局所的な音楽ですが、それと同じモードで安野太郎の音楽を論じられる可能性ってありますか？ 渡邊　私がジャジュウカに行くのは、音楽自体だけではなく、その村に向かい、ご飯を食べたり、寝泊まりする生活の中で生じる総合的な音楽体験があるからですね。その場にしかない音楽、そこでしか生まれない音楽。だから、もし安野さんがリヒャルト・ワーグナーが建てたような自前の劇場……ゾンビ劇場を建設したら、そういうモードで聴きに行くと思います！

――最近、日常生活のいろんな場所にロボットが進出していますから、ゾンビ音楽の延長で、料理する装置が作られるかもしれませんよ(笑)。安野　ゾンビ音楽の殿堂は作りたいです。だってゾンビ音楽史の最後は、無人島を買って、海の水で発電できる核融合路を作り、その下に核シェルターを作り、そこでゾンビ音楽が永久に鳴り続けているというものですから。危口　黙示録以降の世界。

安野　ベルギーのгентっていう街に、オフィスと工房とコンサートホールを全部自前で作った「ロゴス・ファウンデーション」という集団がいるんですよ。溶接も演奏もDIYで実現できる環境は本当に憧れます。渡邊　体験の話に戻りますが、ゾンビオペラに対する個人的な煩悶は今もあります。1つのオペラ作品にするにあたって、やっぱり人間と機械の間に生ずる拮抗が描かれなといけない気がする。

――「人間の意図を排する」ことがゾンビ音楽の使命だとすると、そこは衝突する部分ですね。

危口　人であれマシンであれ、舞台上で言葉を使

うときに、誰がどういう立場で語るのか、発声するのは慎重に考えたい。今回の作品では、すぐくめられた位置に人間が置かれているように見えるかもしれないので、それはなおさら。

渡邊　そうですね。人間が機械に対峙して起こる何かをきちんと目撃しないといけない。やっぱり人間は気持ちを持っているものだから、人が動いて、音が鳴ったという因果の提示だけでなく、そこで生じた心の振幅を作品に取り入れてもいいかな、と私は思っているところです。

安野　渡邊さんの言っていることはすごくわかります。でも僕は、いろいろな条件を縛りつけて、縛りつけて、限定しきって、そして最後に出てきた「百番しぼり」くらいのが個性だと思っ

ている。渡邊　無理して個性を出せてわけじゃなくてね。当たり前だけど、機械と人間、同じ指示を与えたとしても、フィードバックは全然違うでしょ。機械も人間も限界に達したときに出てきてしまったものがなんなのかには興味あります。機械のエラーと人間のミス。どちらも偶然だとしても、それが重なることで、何か別のもっと恐いことが起こるかもしれないのだから。

――この文章は、会場で配られるパンフレットに記載されます。幕が上がれば、お三方の試行錯誤がどのように帰結したかが明かされるわけです。舞台上で何が起こるか。どのような反応が観者から寄せられるか。未知の舞台を、楽しみにしています。

やすの・たろう 作曲家。1979年生まれ。DTM（デスクトップミュージック）やエレクトロサウンドとしてのコンピューター・ミュージックとは異なる軸でテクノロジーと向き合う音楽を作ってきた。2012年からは「ゾンビ音楽」に心血を注いでいる。代表作に「ゾンビ音楽」（第17回文化庁メディア芸術祭）など。

わたなべ・みほ 音楽ドラマトウルク。東京藝術大学大学院音楽研究科博士後期課程修了。ラジオ番組制作、雑誌や書籍の編集、執筆など。F/T14では「春の祭典」の音楽ドラマトウルクを務めた。現在、早稲田大学非常勤講師。

きぐち・のりゆき 悪魔のしるし主宰、演出家。1975年倉敷市生まれ。横浜国立大学工学部在学中に演劇活動を開始するも卒業後ほどなくして停止、以後建設作業員として数年暮らす。2008年頃から活動再開、演劇その他を企画上演する集まり「悪魔のしるし」を組織し現在に至る。2014年度よりセゾン文化財団シニア・フェロー。